

◆認知症について正しい知識を持ちましょう part 16

今月号は、『認知症の人と接するときの心構え』について紹介します。

《『認知症の本人には自覚がない』は大きな間違いです》

認知症の症状に最初に気づくのは本人です。もの忘れによる失敗や、今まで苦もなくやっていた家事や仕事がうまくいかなくなるのが徐々に多くなり、何となくおかしいと感じ始めます。

とくに、認知症特有の言われても思い出せないもの忘れが重なると、多くの人は何かが起きているという不安を感じ始めます。しかし、ここから先は人それぞれであり、認知症を心配して抑うつになる人、そんなことは絶対はないと思うあまり、自分が忘れていたのではなく、周囲の人が自分を陥れようとしているのだと妄想的になるひとなどさまざまです。

認知症になったのではないかという不安は、健康な人の想像を絶するものでしょう。認知症の人は何もわからないのではなく、誰よりも一番心配なのも、苦しいのも、悲しいのも本人なのです。

《『私は忘れてなんかいない！』に隠された悲しみ》

現実には、認知症の人が、『私には、もの忘れなんかいない』、『病院になんか行く必要はない』と言い張り、家族を困らせています。早く診断をし、はっきりとした見通しを持って生活したい、本人を支えていきたいと願う家族にとって、本人のこうした頑固な否定は大きな困惑の元になります。しかし、その他の事柄についてはまだまだ十分な理解力や判断力を持っているのに、自分の深刻なもの忘れに対してだけ不自然なほど目をつぶる理由を考えて見ましょう。

こういう人でも、他の認知症の人のもの忘れが尋常ではないということはすぐにわかります。つまり、『私は忘れてなんかいない！』という主張は、『私が認知症だなんて！』というやり場のない怒りや悲しみ不安から自分の心を守るための自衛反応なのです。周囲の人が『認知症という病気になった人』の本当の心を理解することは容易ではありませんが、認知症の人の隠された悲しみの表現であることを知っておくことは大切です。



◆大崎町の介護保険事業の報告

介護保険事業実績についての報告（利用者の1割または2割負担を除いた大崎町の支払い分）

第1号被保険者（65歳以上の人）		4,950人	平成28年4月末日 現在
要介護（支援）認定者		1,014人	
給 付 実 績	在宅介護サービス費	44,155,512円	平成28年3月の 給付実績
	施設介護サービス費	58,230,593円	
	その他（介護予防サービス費も含む）	31,845,433円	
	介護サービス費 合計	134,231,538円	